

## 企業研究者活用型基礎研究推進事業課題追跡調査結果について

研究活動が難しくなった企業の研究者を活用するために、大学等において研究を実施し、今後の発展が期待される基礎研究テーマに取り組むことで、企業研究者の研究活動の維持、大学等での基礎研究の推進を目的としている。

本調査の目的は、同事業で採択された研究開発課題を対象に、本事業終了後1年が経過したことをうけて、その後の成果の発展状況について調査を行ったので報告する。

### 1. 調査概要

#### (1) 対象・方法

平成21～22年度に同事業で採択され逐次終了した58課題を対象として、企業研究者59人、大学等の研究者58人、合計117人に対して、郵送及びE-mailにて調査票を送付して実施した。

#### (2) 調査期間 平成25年1～2月

- (3) 回収状況 企業研究者 調査数59人、回収数43名（回収率72.9%）  
大学等の研究者 調査数58人、回収数47名（回収率81.0%）

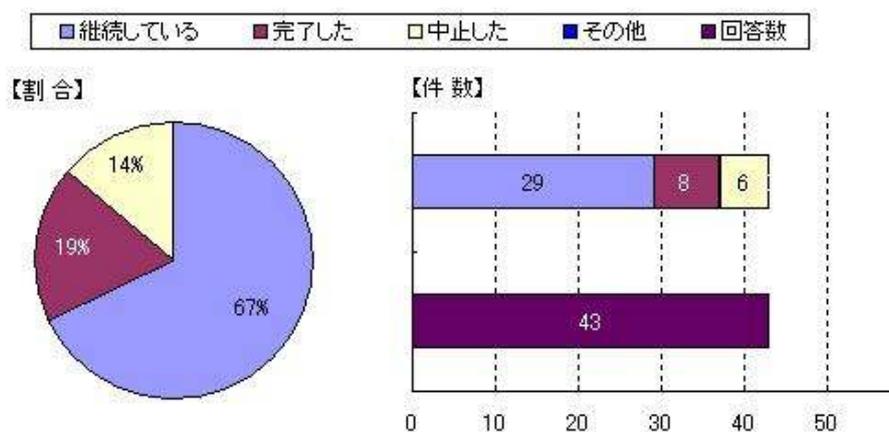
### 2. 調査結果

#### 2.1 企業研究者向け調査結果

##### (1) 現在の研究開発状況

同事業で採択された研究開発課題58に関して、事業終了後の当該研究の現在の状況を調査したところ43名の企業研究者から回答があった。これによると、研究を継続しているが67%（29件）、完了したが19%（8件）、中止したが14%（6件）となっている。

図1 研究開発継続の有無（企業）



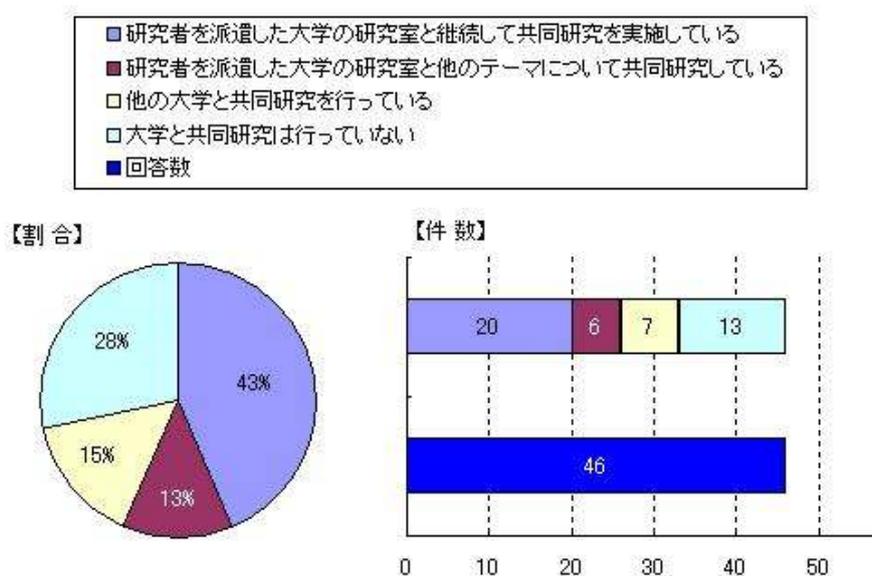
## (2) 大学との共同研究の実施状況

本事業終了後の大学等との共同研究の実施状況について、企業研究者に対し調査したところ、42の課題について回答があった。回答数が46件となっているのは、3つの課題で重複回答があり、他に1つの課題に対し企業研究者2名からの回答があったため。

共同研究の実施状況は、企業研究者を派遣した大学等の研究室と継続して共同研究を実施しているが44%（20件）、企業研究者を派遣した大学の研究室と他のテーマについて共同研究をしているが13%（6件）となっており、半数以上が本事業了後も共同で研究を継続している。他の大学と共同研究を実施しているのが15%（7件）、大学と共同研究を行っていないが28%（13件）であった。

回答内容から、本事業を通じて、製品化やサービス展開に至った課題4件、引き続き、製品化を検討中の課題6件を確認することができた。

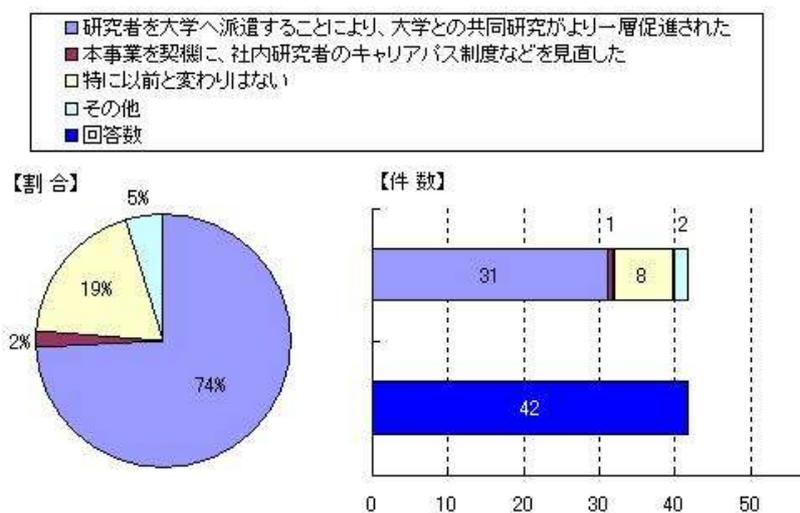
図2 大学との共同研究の実施状況（企業）



## (3) 大学との共同研究についての認識

本事業終了後の大学等との共同研究に関する認識の変化について企業研究者に対して調査したところ、41の課題について回答があった。回答数が42件となっているのは、1つの課題に対し2名の企業研究者から回答があったため。これによると企業研究者を大学に派遣することにより、大学との共同研究がより一層促進されたが74%（31件）と最も多かった。その他の回答についても、企業では実施する機会が少ない研究に取り組む事が出来る点は、大学との共同研究で有用な点であると思うとの記載があった。

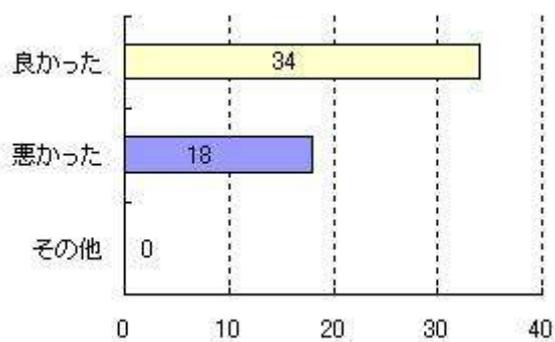
図3 共同研究実施に関する企業研究者の認識



(4) 企業研究者の本事業に対する意見総括

本事業の良かった点、悪かった点を企業研究者に対し調査を（自由記入）したところ、39名から複数回答で52件の回答があった。良かった点・悪かった点の両方を回答されたのが13件、良い点のみ回答が21件、悪い点のみ回答が5件であった。

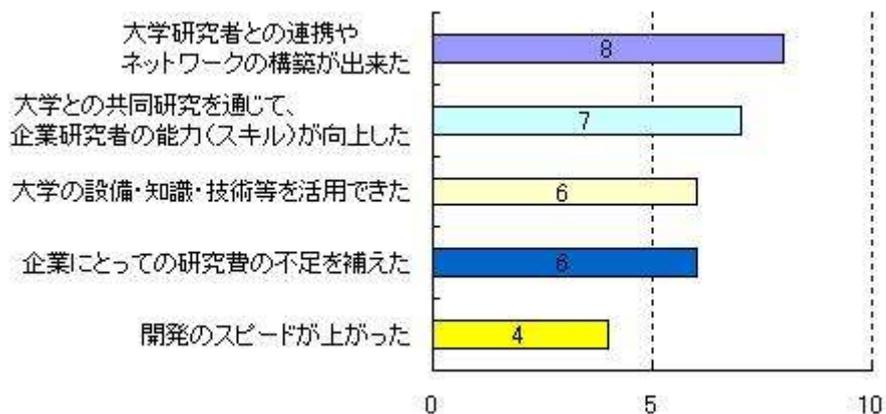
図4 企業研究者 回答内容の割合



① 良かった点の内容

良かった点として記載のあった34件のうち、その中に記載されている個々の項目で多かった上位5項目は、図5の通りである。(1件の回答に複数項目の記載あり)

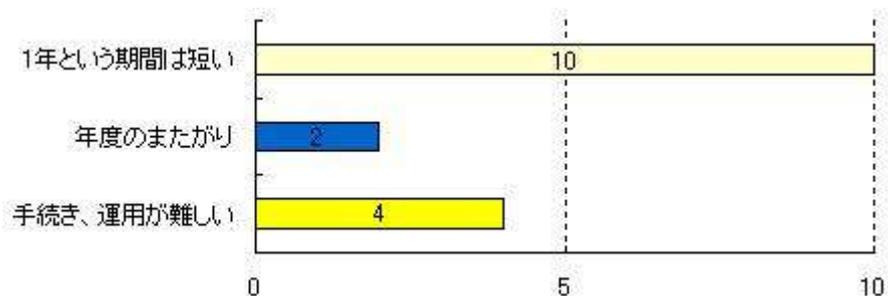
図5 企業研究者 良かった点の内容 上位5項目



② わるかった点の内容

本事業のわるかった点として記載の多かった点18件のうち、項目として多かった上位3項目は以下の通りである。事業の実施期間が採択年度から翌年度に「またがる」1年間であり、年度末と事業の期末の2回予算の締めが行われることから、予算が使いにくかったとの指摘が2件あった。

図6 企業研究者 わるかった点の内容 上位3項目

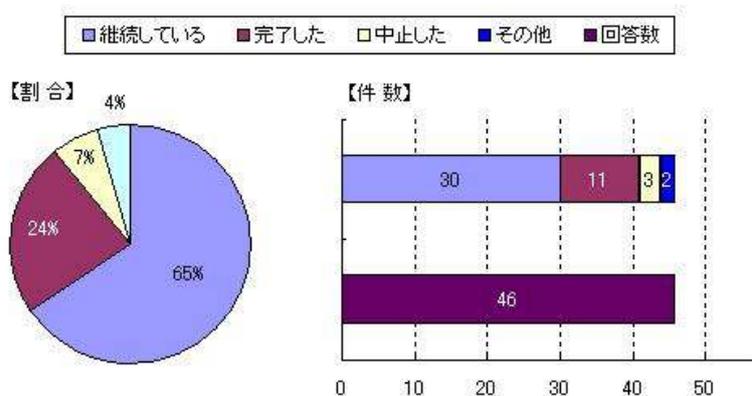


## 2. 2 大学研究者向け調査結果

### (1) 現在の研究状況

本事業で採択された研究開発課題 58 に関して、現在の状況を調査したところ 46 件の回答があった。現在も、研究を継続しているが 65% (30 件)、完了したが 24% (11 件)、中止したが 7% (3 件)、その他が 4% (2 件)であった。

図 7 研究課題の現在の状況 (大学)

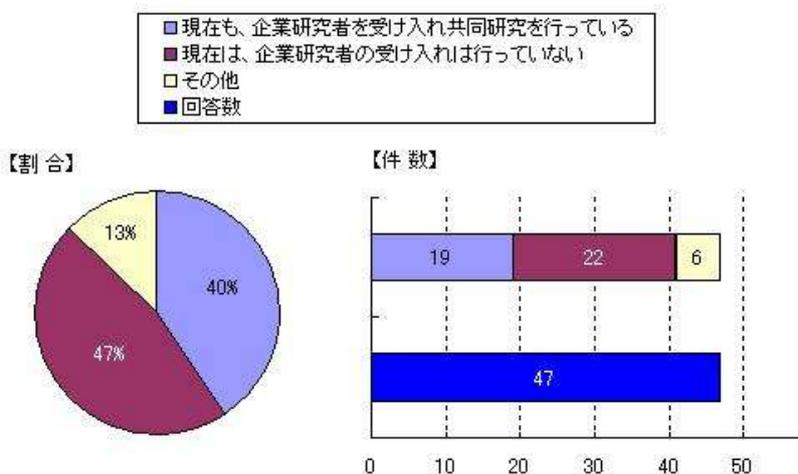


### (2) 大学との共同研究の実施状況

本事業で採択された研究開発課題 58 に関して、本事業終了後の企業研究者との人事交流、共同研究の実施状況について調査したところ 47 件の回答があった。

現在も、企業研究者を受け入れ共同研究を行っている 40% (19 件)、現在は、企業研究者の受け入れは行っていない 47% (22 件)、その他が 13% (6 件)となっていた。但し人事交流という面で見ると、企業研究者の受け入れは行っていないと回答のうち 5 件、その他の回答のうち 5 件の計 10 件は何らかの形でお互いに情報交換を実施している。そういった意味では 47 件中 62%にあたる 29 件は、企業との何らかの形で交流を継続している。

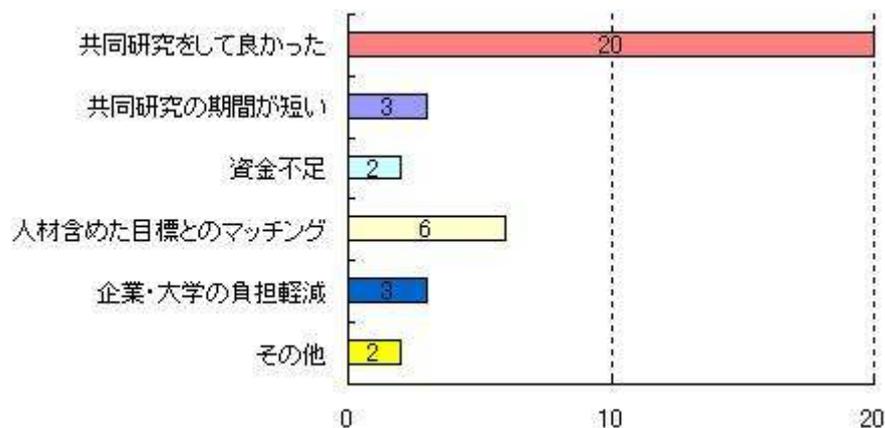
図 8 事業終了後の共同研究の実施状況 (大学)



### (3) 企業との共同研究についての大学研究者の認識

企業研究者との共同研究実施に関する意見（自由記入）を調査したところ 36 件の回答があった。そのうち共同研究をして良かったといった意見が 20 件、そのほか、支援期間、支援金、研究テーマと研究者のマッチングに関連した意見が寄せられた。

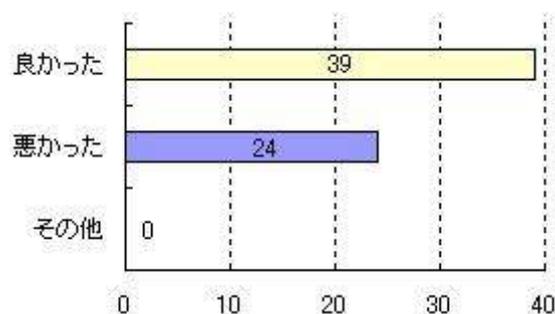
図 9 企業との共同研究についての認識



### (4) 大学研究者の本事業に対する意見総括

本事業の良かった点、わるかった点について調査（自由記入）したところ 45 名から複数回答で 63 件の回答があった。良かったとの指摘があった意見は 62%（39 件）、悪かったとの意見は、38%（24 件）であった。なお、良かった点・悪かった点の両方を回答されたのが 18 件であった。

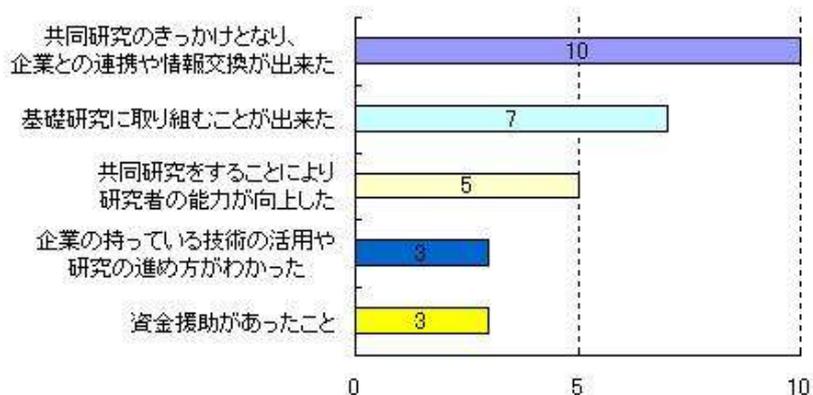
図 10 大学研究者 回答内容の割合



### ① 良かった点の内容

良かった点として記載のあった39件のうち、その中に記載されている個々の項目で多かったものは上位5項目の内容は以下の通りである(1件の回答に複数項目の記載あり)。

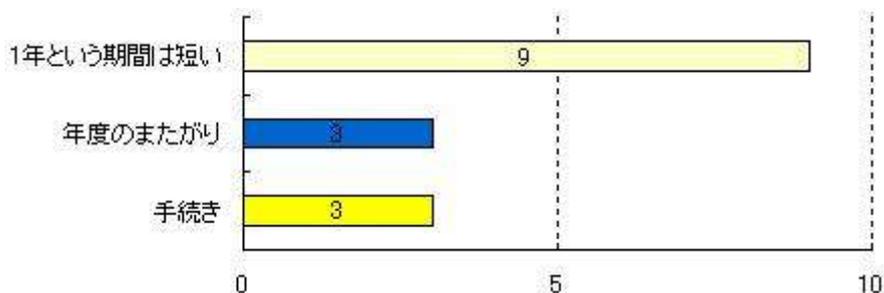
図11 大学研究者 良かった点の内容 上位5項目



### ② わるかった点の内容

本事業のわるかった点として記載の多かった点24件のうち、項目として多かった上位3項目は以下の通りである。

図12 大学研究者 わるかった点の内容 上位3項目



### 3. まとめ

本事業の良かった点として、研究費の不足を補えたということ以上に、企業研究者が大学の基礎研究の現場で共同研究を実施することにより、お互いの持っている知識・能力を吸収し合い、双方のスキルが向上すると共に、研究開発の促進が図れた、産学の情報ネットワーク構築のきっかけとなったという意見が多く寄せられた。一方、要望として多かったのは1年という期間でなく基礎研究をすすめるにはもう少し長い事業期間を必要とする意見が多かった。本事業終了後商品化されたり実用段階にあるものも多く、本事業の成果といえる。

以上